

令和3年度日本農林漁業振興会会長賞概要
園芸部門

豪雪被害からの復興と徹底した共選体制によるブランド化を実現

○氏名又は名称 笛吹農業協同組合青果物生産団体連絡協議会
ハウスぶどう専門部会（代表 矢野 幸人）

○所在地 山梨県笛吹市

○出品財 経営（ぶどう）

○受賞理由

・地域の概要

笛吹市は、甲府盆地の南東部に位置し、寡雨・乾燥で寒暑の差が大きく、日照時間が長い盆地特有の内陸性気候である。さらに、笛吹川とその支流などがもたらす肥沃な土壌や、かん水量の調節を可能とする農業用水路等の整備なども要因となり、果樹栽培に適した地域となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成15年に4JAが統合しハウスぶどう専門部会を設立。平成26年の豪雪災害により、管内のハウスぶどう施設の70%が損壊・倒壊する甚大な被害を受けたが、部会員同士が協力し、ハウスの修繕や再建に取り組むとともに、管内8支所の生産者の統合を図り統一集荷、出荷を実現。令和2年には販売金額11.9億円を達成し、平成25年度（被災前）の10.3億円を上回った。

・受賞者の特色

（1）統一規格と食味重視の共選体制によるブランド化

収穫前の糖度確認等による食味を重視した出荷の徹底と、高品質果実の安定出荷を可能とする出荷規格の統一により、シャインマスカットを中心にブランド化を実現。特に、市場や小売店のニーズに対応した荷姿の設定や、オリジナルブランド「匠（たくみ）の葡萄」の化粧箱による高付加価値化に取り組むなど、消費者ニーズに対応した生産出荷体制を構築。

（2）スマート農業技術の導入

遠隔地からの環境モニタリングにより、異常高温や過湿等による生育不良や障害果の発生を回避するとともに、ハウス内環境の自動制御等のスマート農業技術を導入し、栽培の省力化や生産の安定化を推進。

・普及性と今後の発展方向

ハウスぶどうの導入は、労力分散だけでなく、生産者の経営安定と高収益化につながることから、新規参入や後継者の確保が進み、地域農業の活性化に大きく貢献している。今後は、ハウス栽培の規模拡大や生産者の高齢化に対応するため、スマート農業技術の導入をさらに広げていくほか、市場ニーズに対応した超早期加温栽培技術の確立や新品種の導入を含む品種構成の見直しを進めていく。